

花 き

実 況

1 キク

10月8日、9日に福井県花卉連絡協議会主催で「ふくいフラワーフェスタ 2016」が開催され、その一環として切り花品評会が県総合グリーンセンターで行われた。県内花卉生産物が一堂に会し、約60点が出品され(写真1)、優良な切り花生産者が表彰された(写真2)。

奥越では、秋植え夏ギクの定植が10月上中旬より開始されている。多くの圃場では10月20日までで定植が終了した。9月中下旬の降雨がひびき(図1)、畦上げ等の作業が遅れ、10日程度例年より遅い。除草剤処理、定植等に支障をきたしている。

10月上中旬のJAキク部会の出荷は、40～80箱程度

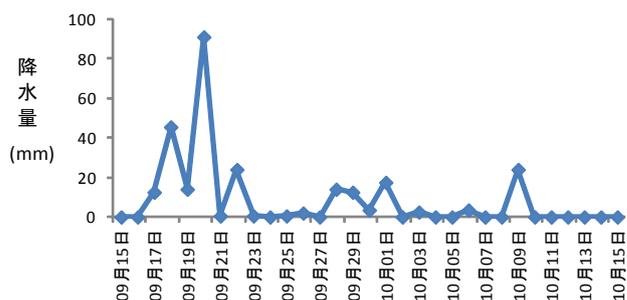


図1 大野市の降水量(アメダスより作図)

で、10月下旬よりJA花卉部会の「ジーニー」等のスプレーギクが出荷されている。全国的に荷が不足し、この時期としては異例の高値が続いている。

11月咲の「精福寿」は草丈94cm、葉数64枚、花蕾数56個、「精あすみ」105cm、93枚、157個で、病害虫ではハスモンヨトウ、ダニ類や黒斑病が多くみられた。彼岸期に花腐れ病が見られた株は開花不良となり、黒さび病が罹病した株も多くみられる。「花乙女」にはクロモティックウィロイド(写真4)、未収穫株にカスミカメ類が多発した(写真5)。



写真1 品評会風景



写真2 表彰風景



写真3 暮植え定植風景



写真4 クロモティックウィロイド



写真5 カスミカメムシ類

あわら市の10月咲ギクは現在出荷中で、価格は高い。寒ギクは10月14日調査で「たしろ」が草丈48.6cm、葉数28枚、「雪まつり」48cm、31枚、「寒月夜」53.7cm、38枚であった。11月上旬が開花見込みである。病虫害はオオタバコガ類が少～中発生、黒さび病が少発生である。来年度の6～7月咲暮植えギクは、かき挿し苗が定植中である。

福井市の露地ギクは、福井市東郷の10月17日調査で10月咲き「あずま」が74.5cm、「あずみ」が100cmで昨年より遅い。葉を食害するアザミウマ類の被害が多い（昨年10月15日調査）。

南越では、10月18日調査(昨年14日)でハウス内への親株定植は11月上旬見込で、10月咲きギクに白さび病が多発している。

丹生では、10月18日調査(昨年14日)で10月咲きの「金風車」89cm(78cm)で収穫はじめ、「ローズ舞風車」84.5cm、蕾径10mmで下旬から収穫見込み(87cm)であり、本年はやや開花が遅い。「シューミルク」が135cm、蕾径10mm、10月下旬から収穫見込み(86cm)である。全般に黒斑、褐斑が多発、一部にカスミカメムシ類の被害が多発している。8月咲き親株の定植が10月初旬(8月咲)、10月中旬(9月咲)に行われている。

二州地区の10月咲きギクは10月17日調査(昨年10月21日調査)で「お吉」が草丈72.8cm、蕾径7.8mm、(昨年89.2cm、開花盛期)となり、最近3か年の中で最も生育が遅い(表1)。「うんかい」が111.8cm、蕾径7.3mm(昨年草丈107.2cm、収穫直前)、「はくろ」が88.2cm、蕾径9.5mm(昨年収穫終了)と8月の高温により、花芽分化が大幅に遅延した。病虫害ではアザミウマ少発し、一部品種にキクモンサビダニ、黒さび病が微発生となり、また切残し株にカスミカメムシ類が多くみられる。

表1 10月咲ギク生育の年次間差

品種名	草丈(cm)		
	28年	27年	26年
お吉	72.8	89.2	88.6

若狭地区の施設10月咲きギクは10月17日調査(昨年21日)で、「白馬」、「かおり」、「おちば」などが昨年は同時期収穫を終了していたのに対し、9月上旬の高温で花芽分化が抑制され、開花が遅延した。生育は、「白馬」が草丈100.8cm、蕾径6.8mm、「かおり」が100.2cm、「おちば」が67.2cm、蕾径7.2mmであった。同様に電照による11月開花作型でも生育が悪く(図2)、「白馬」が95.2cm、蕾径3.5mm(99.8cm、5.9mm)、「かおり」が100.2cm、4.7mm(122.8cm、9.0mm)、「おちば」が49.0cmで未発蕾(75.4cm、蕾径4.9mm)であった。

7月中下旬定植の寒ギクは、「冬一番」が草丈35.6cm(昨年74.4cm、蕾径3.8mm)、「寒桜」が27.4cm(昨年53.4cm)、「新年の美」47.6cm(87.4cm)と高温による発育遅延が見られた。アザミウマ類が少発生、アブラムシ類が微発である(昨年10月22日調査)。

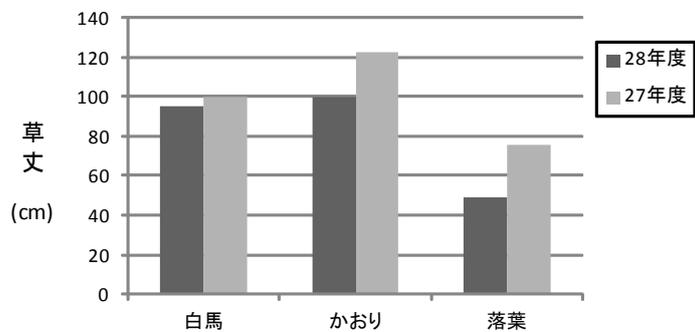


図2 11月咲電照ギクの草丈年次間差

2 スイセン

7月下旬に定植された促成栽培は、9月上旬ころから発芽がそろい、10月10日から出荷(昨年10月5日)で昨年より出荷がやや遅い。季咲きスイセンの花芽分化は9月下旬ではやや遅れていたが、10月中旬調査では平年並みに近づいた。今後は10月上中旬の高温と9月下旬の降雨で、開花は早まる可能性がある。抑制作型の定植が10月中下旬に行われた。福井市清水町でハマオモトヨトウの食害がみられる。

表2 促成水仙出荷開始時期

作型	開花日		
	28年	27年	26年
促成	10月10日	10月5日	10月8日

3 トルコギキョウ

坂井では、一部の品種に芯とびがみられる。7月下旬～8月上旬定植で草丈40～70cm、10月19日調査で「北斗星」が草丈73cm、葉数7～8枚となり、収穫ピークとなっている。「レイナ系」の一部品種でロゼット化している。

越前市では、10月18日調査(昨年14日)で9月中旬播種が本葉2対となり、11月中旬定植予定である。品種は「ボヤージュグリーン」、「一番星」である。

4 ストック

坂井は8月8日に直播、八重鑑別が9月1日から行われた。「ホワイトアイアン」等の草丈は45～50cmで発蕾中であり、11月上中旬から出荷始めの見込みである。9月中旬の気温が高かったため、全体的に昨年より開花が遅くなる可能性がある。

7月28日播種、8月10日定植作型で草丈40～45cm、発蕾始めであり、病害虫ではハイマダラノメイガ、コナガ、アブラムシが少発生している。

南越の10月18日調査(昨年14日)のカルテットシリーズは8月下旬から9月13日まで、連続的に播種されている。

敦賀の「アイアン」シリーズは9月23日に播種された。

若狭地区では10月17日調査(昨年10月21日)で、7月に定植した「カルテット」シリーズが「ローズ」は草丈54.4cmで開花始め、「ブルー」が53.4cmで一部開花、「ホワイト」が48.8cmで開花始めとなっている。

5 ユリ

坂井のスカシユリ「ブラックアウト」は、9月15日定植で草丈31.7cm、葉数137.7枚(昨年9月7日定植で草丈が55cm)、「バーボンストリート」が51.7cm、101.3枚となっており、10月下旬まで定植作業が続く見込みである。

病害虫は首枯病、乾腐病、アブラムシ類の発生がみられる。



写真6 LAユリの生育状況と定植準備

6 オータムヴィオレ

あわら市のシェード栽培は10月12～16日からの出荷になり、草丈70～90cmであった。季咲は10月20日頃から出荷が始まり、草丈50～70cmであった(写真7)。

宮崎地区のオータムヴィオレ(2号)の普通栽培は、10月18日調査で草丈90-100cmと生育順調であった。昨年よりやや収穫が遅く、10月中下旬がピークと思われる。約4000本の出荷見込みで昨年より多い(昨年10月14日調査)。



写真7 オータムヴィオレの
状態(10月13日撮影)

7 ハボタン

福井市二日市の7月下旬定植の「晴姿」が45～52cm(昨年7月25日定植で65cm)、東郷の「晴姿」の草丈68～71cm、「初紅」67～70cmと昨年並みの生育である。



写真8 デルフィニュームの生育
(10月13日生育)

8 その他

フリージアは春江で約1000球、2品種が10月中下旬に定植される見込みである。デルフィニュームはプラグ苗が10月上旬に定植され、現在葉数7枚前後となり、抽苔している。品種は「トリトンラベンダー」、「アリエルホワイト」等である。

対 策

1 8、9月咲きギク親株のハウス搬入と管理

- 1) 親株のハウス内への植え付け適期は11月上旬までである。キクの根は地温が5℃以下になると、新根の発生が悪くなる。本年は冷え込みが早いので、早めの搬入を励行する。
- 2) ハウス内に床幅90cm前後、高さ20cm程度の畝を準備する。土寄せ苗を7×10cm間隔で植え付ける。苗(親株)は太くがっしりして、花芽のついていないものを選んで植える。止むを得ず蕾が着いた苗を植える場合は活着後蕾をとる。
- 3) 植え付け床が乾いている場合は、早めに灌水し適湿にしておく。
- 4) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを、奥越では12月いっぱい、若狭地域では1月下旬までは開放する。
- 5) 植え付け後は月に1～2回、ジマンダイセンフロアブルやダコニール1000等の予防剤で予防散布を励行する。病気や虫の発生を抑制するため、適宜下葉かきを行い、風通しを良くしておく。白さび病が発生した場合は、ひどい病葉を取り除いた後に

チルト乳剤等の治療剤を散布するが、耐性菌の出現を防止するため、散布回数は最小限にとどめる。黒さび病の病斑がみられる場合は、ステンレス剤等で蔓延を抑制する。害虫ではアザミウマ類、ハダニ類の防除を徹底する。特に嶺南地区ではキクモンサビダニの被害が見られるため、頂部にも殺ダニ剤が十分にかかるように行う。

- 6) 植え付け後の灌水は控え目に行う。特に植え付けが遅れた場合に土壤水分が高いと、活着不良を助長する。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。厳寒期はできるだけ葉を濡らさないように灌水する。

2 スイセンの管理

1) 灌排水対策

圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壤水分が少ない場合は、積極的に灌水を行い、適切な水管理を行う。

2) ハウスの雪対策を早めに行う。

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3~4mおきに設置し、ジャッキ等で突っ張り、補強管理を行う(上部はハウスと連結すると良い)。ワイヤー等でハウスの肩を引き付ける(積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため)。筋交いを補強する(建設時に設置しておく)。

3) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

3 ストックの管理

- 1) 昼間の気温を上げすぎると軟弱徒長し、さらに菌核病の発生を助長するので換気に十分注意する。夜温が8~10℃以下に下がらなければ、夜間はサイドビニールを開けて保温するが、室温が20℃より上がってきたら、サイドのビニールを開放して、換気を十分に行う。

- 2) ストックのホウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。基肥によりりん等を施していない圃場では、ホウ素入り液肥を適時灌注する。

- 3) 出蕾を始めたなら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土等乾きの遅い圃場では、さらに早めこれらの対策を行う。

- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリベリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。後期はアフェットフロアブルを散布し、汚れに注意を払う。

- 5) 収穫適期は3~4輪が開花した時(市場によって多少異なる)を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水揚げする。



設置面は板を置く

4 6～7月咲トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いので、特に土づくりが重要である。堆肥を2～3 t / 10a 施用し、30cm以上の深さで耕起する。
- 2) 無加温ビニールハウスでは、遅くとも11月上旬までに植え付けをする。植え付け日の1週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付ける。
- 3) 本葉4枚になると茎が立ち始めるのでその前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日や暖かい曇天日の午前中に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病等の病害が発生しやすいので、換気を十分に行う。発生時にはアフェットフロアブル、ポリベリン水和剤やゲッター水和剤等の薬剤で防除する。
- 6) 育苗中に植え付け後の活着促進のため液肥1000倍を施用する。

5 球根ユリの定植作業

- 1) 定植適期は各品種とも11月下旬～12月上旬であるので、圃場の準備を進める。
- 2) ハウス周辺の排水対策を行い、定植20日前に石灰類10kg/a、ようりん1kg/a、堆肥200kg/aを施用し、土壌酸度をpH5.5～6.5に調整する。
- 3) 施肥は定植10日～2週間前に有機ブリケット特S90号(6-6-5)30kg/a、草木加里600g/aを全量基肥とする。
- 4) 畝は畝幅120cm(天幅90cm)で、栽植密度12cm×12cmの6条植えを基本とする。分球している球根は15cm×20cmに定植し、芽立ち後2本に整理する。球根の覆土は7cm程度とする。これより浅いと上根が張らず、切り花の品質が後半落ちやすい。
- 5) 出芽してきたら、病害防除のためトップジンM水和剤、ダコニール1000等の薬剤による防除を行う。